玉川野毛町公園拡張事業 基本設計（検討案）

協働の公園づくり「玉川野毛町パークらぼ」の活動を通じて、区民参加で基本設計（検討案）［赤色の枠の範囲］についてとりまとめました。

公園づくりの方針（基本計画）

〇ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり
つくりこみすぎず、人との関わりにより少しずつ育む「余白をいかした公園づくり」をめざします。

〇みどりとみずのネットワークづくり
〇歴史・文化を感じられる公園づくり
〇安全・安心の公園づくり

既開園区域のリニューアル

既開園区域も順次全面改修を予定しています。
区民の皆さまと検討の機会を設けながら進めます。

《エントランス広場の再整備》… ①

・公園の一体性や古墳との連続性をいかしたエントランスとして再整備します。
・管理機能に加え、飲食・物販などの「**便益・サービスの拠点となる施設**」を配置します。
・既開園区域と拡張予定地を並木でつなぎます。
・「**駐車場**」は19台から40台程度に増やします。出入り口を交差点から現状より離すことで、安全性の向上を図ります。

《スポーツ広場のリニューアル》

・「**テニスコート**」は、多目的広場周辺のスペースを活用し移転を検討します。移転にあたっては、野球場、屋外プール、ケヤキ並木とあわせて改修を検討します。
・「**野球場**」「**テニスコート**」「**屋外プール**」「**多目的広場**（人工芝の広場、バスケットコート）」は現状と同等の機能と広さを確保します。

《こども広場》

遊び場となる広場や園路動線など現状の課題を把握し、利用者の声を聴きながら改修を検討します。

デザインのコンセプトは「グリーンウェーブ」～多様な区民活動が公園からまちに広がる～

公園を身近な暮らしの舞台に

・古墳や微地形、樹木がかたちづくる立体的なみどりの波
・多摩川や等々力渓谷、国分寺崖線がつくる地形の波
・多様な活動を支える大地の波（テクスチャーの変化）

3つの環境要素で活動を支える空間をつくる

活動や地域を支える公園

《公園利用や活動の拠点となる施設》…②

・「環境と調和する」「外部と連続する半屋外スペースをいかす」「微地形と呼応し、風景に馴染む」建築物とします。
・休憩や活動、展示など様々な用途に対応できるフレキシブルな設えとします。
・施設周りには様々な活動に対応できる舗装の広場空間を確保します。

《子どもが創造する自然の遊び場》

・施設系の遊具は設置せず、原っぱや樹林などの自然環境をいかし、自由な発想で遊びを創造できる空間を整備します。

《バックヤード・防災倉庫》… ③

・既開園区域にある公園管理用のバックヤードや防災倉庫は、南西角に移設します。
・区民参加による樹木や草地の維持管理活動を行う拠点としても整備します。

《グリーンインフラ》

・みどりの環境や地形をいかし、雨水の流出を抑制するとともに、水の循環や生きものの生息環境、遊び・学びの場を整備します。

エントランス広場の再整備

断面イメージ①

・エントランス広場は、マルシェやキッチンカーなどの利用ができる広場空間とします。

便益・サービスの拠点

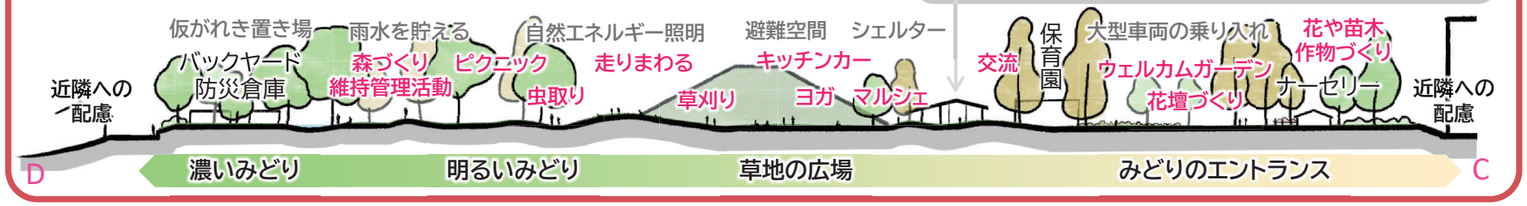
飲食・物販、テニスコート・野球場の管理機能などを導入します

拡張予定地の整備

断面イメージ②

区民参加により少しずつみどりを育て、次世代につなぐ都市の里山をつくります

・人の関わりにより、みどりのグラデーション（樹木や草地の変化）をつくり多様な利用空間と景観を創出します。
・既存の樹木をいかし、武蔵野台地の主要な構成樹種や落葉広葉樹を主体としたみどりを育成していきます。

公園利用や活動の拠点

公園の利用や活動を支える多目的スペースを設けます